

R2年度 佐賀大学教育学部附属小学校 図画工作科の取組⑥



幼小接続の視点を意識した授業実践

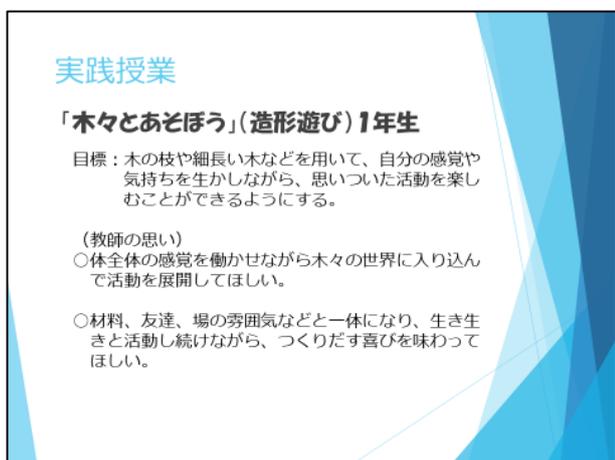
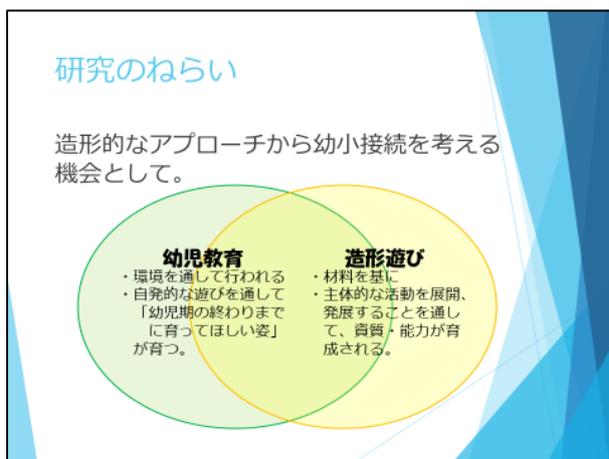
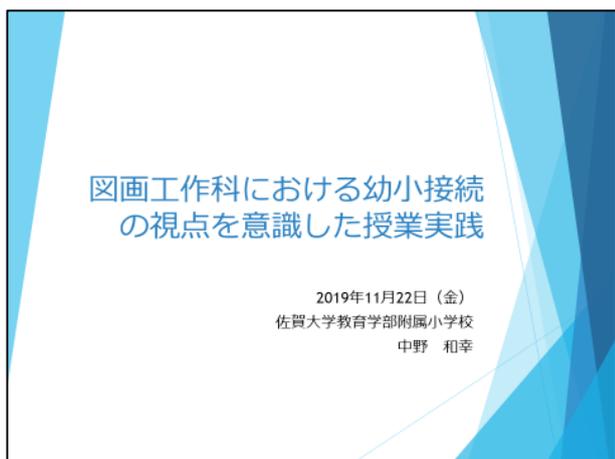


平成30年に行った実践の紹介です。7月に1年生を対象にたくさんの木の枝を材料に造形遊びを行いました。1年生の夏ということで、幼小接続を意識した授業ができないかなと考え、取り組みました。

幼児教育と造形遊びは、考え方が似ているところが多くあります。環境（材料）を通して行われ、どちらも自発的な活動としての遊びが展開されます。造形的な視点で遊びが展開されるよう、子どもが働かせている資質・能力を見取り、言葉かけ等を行っていきます。幼児教育で大切にされている要素を造形遊びの中に取り入れることで、子どもたちはのびのびと活動し、遊びこむ中で資質・能力が培われるであろうと考えました。

授業後に感じたことは、「子どもの姿から授業づくりを行う」という点。遊びや活動を見付け、つくりだすのは子どもたちです。学校では授業時間や場所等限られるけれど、その時間は子どもたちに委ね、おなかいっぱい遊びこませてあげる。そのために、子どもの様子や材料からどんな活動が行われるかを予測し、材料の種類や量、場所、環境、目標等を設定することが大事だなと感じました。

以下、令和元年11月に行われた造形教育全国大会での発表資料（抜粋）です。



授業づくりの視点

① 場の構成



- 広い空間
- 中央に木を山積み
 - ・木の枝
 - ・細長い木
- 周りにそれとなく用意した木
 - ・平たく切った木
 - ・長い木
 - ・丸太

授業づくりの視点

② 材料の種類と量

- メインの材料 (大量)
 - ・木の枝
 - ・細長い木
 ⇒線材。並べる、つなげるなどの活動を期待
- 周囲に用意
 - ・平たく切った木
 - ・長い木
 - ・丸太
 ⇒形、太さ、手触り、量感の違いなどを感じながら、活動の展開・発展を期待



授業づくりの視点

③ 展開

- 出あい
 - ・木の山との出あい。
 - ・興味を惹きつけるように。
- 少しずつ新たな材料が登場
 - ・児童が気付いて用いることで、新たな展開が。
- 友達と一緒に
 - ・活動の広がり、気付きの共有。

↑
活動の予測



活動の予測 ⇒ 言葉かけ

授業の実際

組む



こする



たたく



たたく



授業の実際

集まる



バランスをとる



並べる



組み合わせる



授業の実際

並べる



重ねる



ためす



見つめる



授業研究会で

- 幼保小のつながりを提案することができた。
- 材料がタイムラグで少しずつできたので、活動に広がりが見られた。

授業研究会で

- 教科の学びとして、どのような学びを求める必要があるのか。
- 本時のねらいを明確にし、子どもと共有する
- これまでの経験を生かすとよい。
(例)「木となかよくなろう」
(幼保までの活動)
↓
「木となかよくなって、いろんな発見をしよう」小学校での活動)

ねらいの明確化

授業研究会で (園の先生から)

- ・子どもの驚きや発見から、活動を展開していくといい。
- ・子どもは、体験しながら遊び込み、工夫していく。そのための環境を用意する。
- ・活動の変化や深まりは、子どもの姿から捉える。
- ・「もっとやりたい!」となるように、素材や場所、環境に変化を少しずつつけていく。

子どもの姿からの、授業づくり。
子どもの姿のみと一言かけ。
素材(材料)、場所、環境構成

まとめ

- 「10の姿」と教科で目指すものは、別のものではなく、つながっている。
- 子ども理解が重要。子どもをみる意識をもつ。子どもの能力だけでなく、育ちをみていく。
- 子どもの活動を予測し、材料、場所、環境、目標等を考える。

子どもの姿から授業作りを行う。

授業の指導案(評価規準と展開部分)。子どもの活動の予測・見取りが大切になります。

4 題材の評価規準	
ア	自分の感覚や気持ちを生かしながら、木々の並べ方やつなぎ方を工夫してつくっている。 【知識・技能】
イ	木々の特徴や手触りなどから造形的な活動を思い付いたり、自分の感覚や気持ちを生かした活動を考えたりしている。 【思考力・判断力・表現力】
ウ	木の枝や細長い木、平たき切った木、幹、丸太を使って、思い付いた造形活動に楽しんで取り組もうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
5 本時の展開(1/1時間)	
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: small;"> □…教師の提案 ○…児童の意識や活動 ▭…主な言葉かけ </div>
児童の意識や活動の流れ	
教師の働きかけ	<p>1-(1) 材料への興味や活動への意欲を高められるように、材料を隠すなど出合いを演出する。</p> <p>1-(2) 木々を扱う際、安全に十分気を付けるよう確認する。</p> <p>2-(1) 思い付いた活動が展開できるように、広い空間で行う。また、線材としての木々を並べたりつなぐたりする活動を十分楽しむことができるよう、始めに大量の細長い木や枝と出合わせる。</p> <p>2-(2) 並べる、折る、積みあげる、重ねる、つなげるなどをしながら、楽しく活動することができるように、イメージや活動の方向を尋ね、活動や思いに共感したり称賛したりする言葉かけを行う。</p> <p>2-(3) 活動が停滞している児童には、いろいろな木や枝と一緒に触れたり、友達活動を一緒に見まわったりしながら、活動を促す言葉かけを行う。</p> <p>2-(4) 木の幹や丸太などを用意し、線的な材料だけでなく、面的、量的な材料も生かした活動ができるようにするとともに、木々の特徴や感じなどを基にした活動や発言を価値付ける。</p> <p>3 広がった木々を見ながら活動の価値付けを行うとともに、進んで木々に関わり、活動を楽しんだ姿を認め、満足感や達成感を高める。</p>